

海外安全対策情報（平成27年度第2四半期：コロンビア）

1 社会・治安情勢

(1) FARCを巡る動向

7月8日、FARC（コロンビア革命軍）は7月20日より1ヶ月間一方的停戦を行う旨発表した。20日、FARCは一方的停戦期間を11月20日まで延長する旨発表した。25日、サントス大統領は国軍に対し、FARC野営地への空爆を停止するよう命じた。

8月16日、ティモチェンコFARC最高司令官は、政府は空爆停止措置期間であるにもかかわらず空爆を継続しているとして非難、19日、FARCはFARCによる一方的停戦を危機に晒すような軍事行動が国軍により実施されているとして非難する声明を発出した。20日、ビジェガス国防相はFARCによる一方的停戦宣言後一か月の状況報告をし、軍人2名及びゲリラ4名の計6名が死亡したのみで、過去40年間で最低の戦闘水準であった旨述べた。

9月23日、サントス大統領はキューバを訪問し、ティモチェンコFARC最高司令官と会談した。同会談において、政府とFARCは武力紛争を終結させるための和平最終合意の署名期限を2016年3月23日とすることで合意した。

(2) ベネズエラ国境付近の社会情勢

8月19日、コロンビア人密売人の襲撃によりベネズエラ兵3名が負傷したことを受け、ベネズエラが同国タチラ県と当国ノルテ・デ・サントアンデール県との国境を閉鎖し、ベネズエラ領内の不法滞在コロンビア人を大量に強制送還した。

2 一般犯罪の傾向

(1) 犯罪別発生件数

第2四半期（7月～9月）のコロンビア全国における罪種別犯罪発生件数は以下のとおり（出典：コロンビア国防省統計）。

| | |
|-----------------|---------|
| ・殺人 | 3,096件 |
| ・強窃盗（対人被害） | 24,616件 |
| ・強窃盗（邸宅、商業施設被害） | 10,354件 |
| ・強窃盗（乗物被害） | 8,028件 |
| ・性犯罪 | 5,924件 |

(2) 邦人被害事案

- 7月16日、出張者の邦人がボゴタ市内のファストフード店で同僚らと食事中、座席の横に置いていたバックを窃取された。
- 7月16日、短期旅行者の邦人が、メデジン市内で道を尋ねた男性と親しくなり、フードコートで注文した飲み物に睡眠薬を混入され気

を失い、貴重品を強奪された。

- 7月19日、短期旅行者の邦人が、長距離バスの中で足下に置いていたバックの中から貴重品を窃取された。
- 9月12日、長期在留者と友人の短期旅行者がボゴタ市内で突然3人組の男に襲われ、ナイフで切りつけられる等し、負傷した上、所持していた貴重品在中のリュックサックを強奪された。

3 テロ・爆弾事件発生状況

(1) 発生件数（7月～9月）（出典：コロンビア国防省統計）

118件

(2) 発生事案

国内において、以下のテロ・爆弾事案が発生した。

- 7月2日、ボゴタ市内中心部2箇所でELNが仕掛けた爆弾が爆発し、少なくとも市民6名が負傷した。
- 7月10日、ノルテ・デ・サントアンデール県ポロリオ市においてFARCが国軍兵士に対し爆発物を投げつけ、兵士2名が死亡した。
- 7月12日、カウカ県とバジェ・デル・カウカ県の複数の都市でFARCが警察署や検問所を襲撃し、少なくとも警察官6名が負傷した。
- 7月13日、アンティオキア県バルディビア市でFARCが警察署を襲撃し、警察官2名が負傷したほか、ノルテ・デ・サントアンデール県でもFARCが警察署を襲撃し、警察官1名が負傷
- 7月21日、メタ県メセタス市で警戒中の国軍をFARCが襲撃、兵士1名が死亡した。
- 7月22日、アンティオキア県ユルマル市のカリブ海沿岸の道路で爆発が発生し、3人の警察官が負傷した。
- 8月4日、カウカ県サントアンデール・デ・キリチャオ市のパン・アメリカン高速道路において、何者かによって仕掛けられた、警戒中の国軍を狙ったとみられる爆弾が爆発した。
- 9月13日、アラウカ県の3つの市で国軍の検問所がELNとみられるゲリラの襲撃を受け、兵士4名が負傷した。

4 誘拐・恐喝事件発生状況

(1) 発生件数（7月～9月）（出典：コロンビア国防省統計）

ア 誘拐 69件

イ 恐喝 1,263件

(2) 発生事案

7月、短期旅行者のペルー人がボゴタ市で短時間誘拐の被害に遭った。

5 日本企業の安全に関する諸問題

政府の継続した治安対策により、ボゴタを始めとする都市部ではテロ、殺人及び誘拐の発生は減少し、都市部の治安状況は過去と比べ改善されている。

しかし、本年7月、ボゴタ市内で連続爆弾テロが発生するなど未だ警戒を怠ることはできない。また、本年5月22日から7月20日までのFARCが一方的停戦を破棄していた期間は、山間部やジャングル地帯を中心に治安機関及び石油・電力施設を狙ったテロが頻発した。これら地域は、国軍・警察の影響力も低く、特に人的・物的被害が絶えない。

現在キューバの首都ハバナにおいて、政府側とFARC側の代表団が交渉を継続中である和平交渉が合意に達したとしても、社会復帰が出来なかったゲリラが一般犯罪に手を染めるなどの不安要素が存在することから、治安の動向は予断を許さない状況になるものと思われる。

従って、特に地方への訪問については、その可否を決定する上でも、外務省、大使館、現地治安当局より最新の治安情報を入手するよう努めていただきたい。